

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:146.

視力障害者の料理への介入と精神的な変化の検討

平島郁美、工藤 諭、内桶園己、乗田典子

視力障害者の料理への介入と精神的な変化の検討

旭川医科大学病院 8 階東病棟 平島 郁美、工藤 諭、内桶 園己、乗田 典子

【研究目的】

増殖性糖尿病網膜症による視力の低下で、日常生活に支障をきたした患者が入院した。患者は退院後も自分で料理をすることを希望しており、入院中に現在の視力でも実践可能な料理についての介入を行った。入院時は消極的であった患者の気持ちが退院時には前向きに変化しているように感じた。自己効力理論に基づいて、患者にとって料理への介入がどのような意味があったのか、精神的な変化が料理への介入によるものであったのかを明らかにする。

【方法】

入院中の看護記録から料理への介入についての内容を抽出し自己効力理論を参考にして振り返りを行う。

【結果】

「遂行行動の達成」としては患者の見え方に適した料理の方法について実際に実施したこと、「代理的経験」とし

ては患者同士の情報交換、「言語的説得」としては患者に有用であると考えられる料理方法を情報提供すること、「生理的・情動的状態」としてはそれらの介入により本人の気持ちが前向きに変化した。

【考察】

自己効力理論に重ねると、今回の介入により自己効力を高めることが出来ていることがわかった。また、料理についての介入は、料理だけではなく病気の受け止めや生活に対する意欲を高めることにも繋がったと考えられる。

【結論】

今回の介入は自己効力感を高める介入であり、消極的だった料理に対し退院時には前向きに考える精神的な変化に繋がった。